The Japan Academy

49th Public Lecture

入場は**無料**です。
No charge for admission

☞ 目覚しい発展を遂げるインド、この国を文化と科学の両面から日本学士院会員が語ります。

time	14:00–17:10	
place	日本学士院会館	
lecturer	原　實 日本学士院会員 東京大学名誉教授 スウェーデン王立学士院会員	西澤潤一 日本学士院会員 首都大学東京学長 東北大学名誉教授
title	異文化の理解 —古代インドの場合	“光”と“電波”をつなぐ —ラマンレーザー

10. 18, 2008.

上野の山文化ゾーンフェスティバル　講演会シリーズ

事前申込制（定員150名、締切日１０月６日）
詳しくは裏面をご覧ください

<講演会に関するお問い合わせ>

日本学士院 〒110-0007 東京都台東区上野公園７－３２
TEL:03-3822-2101 FAX:03-3822-2105
Web:http://www.japan-acad.go.jp/

日本学士院第49回公開講演会

日本学士院では、広く一般の方々を対象に、本院の活動を理解してもらうことを目的として、会員を講師に毎年春・秋２回実施しています。春季は全国各地、秋季は上野の本院会館で開催し、専門分野の異なる講師により研究成果を社会に分かりやすく発信しています。本講演会は各分野で高い業績を挙げた日本学士院会員の話を聞ける数少ない機会です。是非、奮ってご参加ください。

開会挨拶　濱　清　公開講演会委員会委員長

講演、一　異文化の理解 ―古代インドの場合

西暦紀元前5世紀インドに興った仏教は、約1000年を経て百済から日本に伝えられたが(538AD)、その頃我々の祖先はインドを遠い異国と思っていた。当時彼等にとって全世界は日本を含めて本朝、震旦、天竺の所謂「三国」であったが、その中でもインドは釈迦誕生の理想国と考えられていた。

一方西洋にはアレキサンダー（Alexandros）大帝の東方遠征以来知られてはいたが、本格的に東西交渉が始まったのは1498年ヴァスコ ダ ガマ（Vasco da Gama）の所謂インド航路発見以後である。以来宣教師や商人がこの地に来訪するようになったが、1786年英国人ウイリアム ジョーンズ卿（Sir William Jones）がサンスクリット語と西洋古典語との親族関係を発見するに及んで、古代インドは学問研究の対象となった。日本のインド研究も明治以後西洋から導入された。

東に仏教研究の長い歴史があり、西に言語学的文献学的研究の伝統のある中で、古代インドの研究と理解はどのような経緯を辿ったであろうか。

◆司会　上田閑照　会員

原　實
日本学士院会員
東京大学名誉教授
スウェーデン王立学士院会員

講演、二　“光”と“電波”をつなぐ ―ラマンレーザー

電波は、何もない空間でも進める電磁エネルギーのかたまりで、1864年にマックスウェルが理論的に発見した極めて珍しい現象である。これを実験的に証明したのがハインリッヒ・ヘルツで1886～88年であった。実際に通信に利用したのは1895年マルコーニで、ほぼ同時期ポポフも同じような実験を行った。これを使って、指定した人と通信を行う携帯電話などが出来て利用者毎に電波を配分するとすぐ足りなくなる。今後ますます盛んになる通信にもラマンレーザーで出るテラヘルツ波は正に旱天の慈雨である。更に有機化合物に共振するから、病気の検知から薬理学の研究、ヴィールスや菌の分類など極めて広範囲に応用が可能で細菌学についても新しい見識が導入されるものと考えられる。

◆司会　横堀武夫　会員

西澤潤一
日本学士院会員
首都大学東京学長
東北大学名誉教授

平成20年10月18日（土）14時～17時10分

於日本学士院会館（JR上野駅公園口より徒歩4分、東京メトロ上野駅より徒歩8分、京成上野駅より徒歩8分）

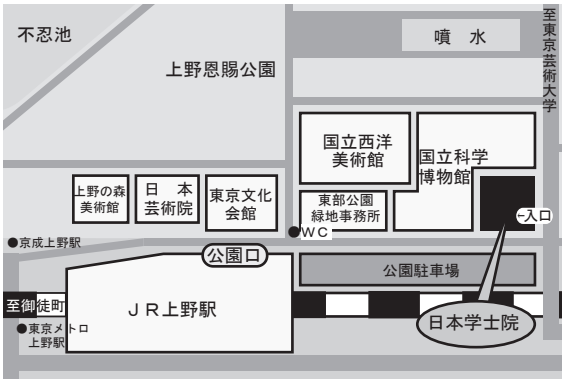
＜お申し込み　お問い合わせ先＞

日本学士院　公開講演会係
〒110-0007　東京都台東区上野公園7-32　TEL:03-3822-2101 FAX:03-3822-2105
e-mail: kouenkai@japan-acad.go.jp　WEB: http://www.japan-acad.go.jp/

＜お申し込み方法＞　※事前にお申し込みが必要です。

ホームページ、e-mail、ファックスまたは往復はがきのいずれかの方法で住所、氏名、電話番号、メールアドレス等の連絡先を記載して、上記の連絡先にお送りください。締切日以降に整理番号をお知らせします。なお、定員を超えた場合は抽選とさせていただきます。予めご了承ください。

締切日１０月６日



会場案内図　※お車での来場はご遠慮ください